

東大螢雪会の「医学部受験Q&A」

年々厳しさを増している医学部受験。数少ない「合格」を手にするためには、効果的な学習を効率的に進める必要があります。と分かっていても、医学部受験に関する不安や悩み、疑問は尽きないものです。「このままで医学部に合格できるのか?」「なかなか勉強に手がかからない。どうすればよいのか?」……また、医学部受験生を持つ親御さんも「最近あまり勉強していないようだが、本当に大丈夫なのか?」「私の時代の医学部入試とは変わってしまったのか?」……このような疑問に東大螢雪会が答えます！

今回は医学部合格を目指す1浪生と高校3年生からの質問に答えます。回答者は東大螢雪会代表の栃木拓郎先生です。



栃木拓郎先生

Q 僕は私立大学医学部を志望している1浪生で、大手予備校に通っています。新年度の学習を開始してからまだ日が浅いので、模試で良い点数を取る自信がありません。模試は十分に学習を重ねてから、力試しとして受けたいのですが、今から受けた方が良いでしょうか？

A 模試を受けて、結果が思わしくないと、気分は良くないかもしれません。模試を受けたくないという気持ちはわかります。しかし、模試には様々な効用がありますので、できるだけ数多く受けるべきです。では、模試の効用についてのお話をさせていただきます。まず、模試には、大きく以下の3つの効用があります。

模試の効用

1. 自分の弱点を知ることができる。
2. 本番の試験の雰囲気になれることができる。
3. 最新の問題を入手することができる。

これら3つについて1つずつ見てみましょう。まずは1つ目です。これは、保護者の方や高校の先生もよくおっしゃることでもあり、もっともなことだと思います。ある科目について一通りの学習を行った生徒さんが模試を受ければ、どんな優

秀な生徒さんであっても、自分の理解度にムラがあることを体感することになります。そして、この理解度のムラを改善すれば、学力は必ず上がることになります。自分のムラがどこにあるのかをチェックできるのは大きな効用だと思います。

次に2つ目です。あなたの最終的な目標は、もちろん医学部入試の本番の試験を突破することです。模試ではその予行演習をすることができます。一 本番の試験の当日には、試験の開始時間に頭が十分に働くようにするために早めに起床します。前日までに試験会場までの経路を確認しておいて、試験会場に早めに到着できるように出発します。試験会場に到着すると、机が想像していたよりも狭く、隣の受験生と手がぶつかる程の間隔しかないかもしれません。

このような環境で、あなたは厳しい入試を突破しなければならないのです。そのためには、日頃の学習環境とは違った場所で実力を発揮できるように練習しておくしかありません。

最後に3つ目です。受験生の皆さんは気付いていないかもしれませんが、実は、音楽やファッションのように、入試問題にも流行があります。これは、「最近この単元からの出題が多い」とか「この単元のこの分野からの出題が多い」とかいうものです。あなたが突破しなければならない入試に出題されるのは、最新の問題、つまり流行の最先

端の問題です。市販されている膨大な参考書や問題集の多くは出版されてから10年以上は経過しているものばかりでしょう。模試の問題、特に大手予備校の模試の問題は、問題作成者の方々が最近の入試の出題傾向、つまり入試問題での流行を踏まえて作ったものになります。ですので、模試の会場に出かけていって、問題をもらうだけでも、入試問題の流行がわかるので、模試の大きな効用となります。

Q 国公立大学医学部合格を目指している高校3年生です。大手予備校の模試の偏差値は総合で50くらいですが、塾や予備校には通っていません。自分なりに勉強しているつもりですが、なかなか学力が伸びません。今後どうすれば学力が伸びるのか、アドバイスをお願いします。

A 「自分なりに勉強しているつもりですが、なかなか学力が伸びません」ということですが、この状況は本当に辛いと思います。しかし、医学部合格のためには、もちろん前に進むしか手はありません。

まずは、今のあなたの勉強方法を抜本的に見直す必要があると思います。しかも、高校3年生であれば、受験までの残り時間が少なくなっているので、この見直しはできるだけ早急に行う必要があります。なお、医学部に合格するためには、どの医学部を目指すかにもよりますが、河合塾の総合の偏差値で少なくとも65以上を安定的に出すレベルを目指したいところです。

では、具体的な勉強方法の見直しについてお話しいたします。勉強しているのに学力が伸びない生徒さんに多く見られるのは、基礎力が備わっていないのに、応用問題ばかりを解こうとしているケースです。偏差値を上げることはばかりを見てしまうと、ついつい「難しい問題を解けば、偏差値が上がる」ような気になってしまいがちです。しかし、基礎力が備わっていなければ、応用問題はなかなか解けないばかりか、解こうとしているうちに時間ばかりが過ぎてしまいます。これでは、学ぶことができないばかりか、多くの無駄が発生してしまいます。ですので、苦手な科目や分野を

攻略する場合には、必ず基礎に立ち返るようにしましょう。

ところで、あなたの総合の偏差値が50くらいということですので、次の2つのケースによって対策を分ける必要があります。

CASE 1 :

偏差値60以上の科目はない。

CASE 2 :

1科目でも偏差値60以上の科目がある。

このような質問をされる生徒さんのほとんどはCASE 1 に該当すると思います。このCASEでは、まずはすべての科目のすべての単元において完全な基礎力を養うことを目指してください。手を付けるのは得意な科目からでも結構ですが、学力が伸びるのに比較的時間のかかる英語と数学を優先して進めるのがポイントです。ただし、受験までの残り時間が少なくなっているので、できるだけすべての科目を万遍なく進めてください。次に、CASE 2 の場合です。入試において得意な科目があると非常に強いのは言うまでもありません。そのため、偏差値60以上の科目を磨き上げることに注力するところからスタートしても良いかもしれません。そうすれば、比較的得意な科目であるために、ストレスなく勉強を進めることもできます。この場合には、基礎力の確認を常に行いつつ、応用力を養ってください。そして、この得意科目での成功体験を生かして、その他の苦手な科目の攻略に当たってください。

今回は以上となります。最後までお読みいただきまして、有り難うございました。このコーナーが皆さんの医学部合格のために少しでもお役に立つことができれば幸いです。

このコーナーでは、皆さんからのご相談を受け付けております。東大螢雪会「医学部受験Q & A」係宛にお電話かメールにてお送りください。電話番号は0120-3150-54、メールアドレスはinfo@keisetsukai.comです。お待ちしております。